

⑩ 流れ様配列

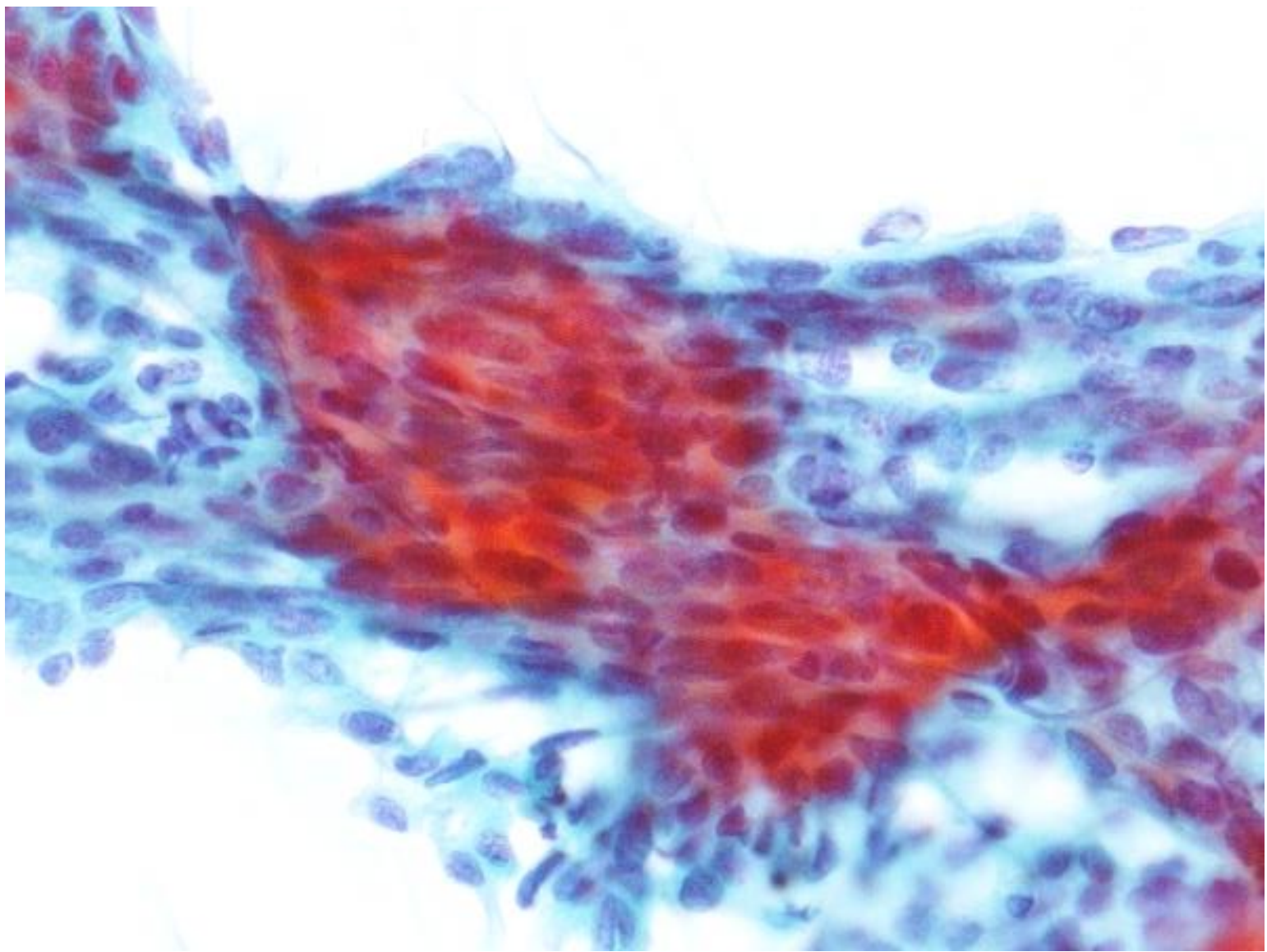
・細胞学的定義

細胞集塊内で楕円形核や紡錘形核が、長軸方向に沿って、一定方向に流れるような配列を束状に認める。

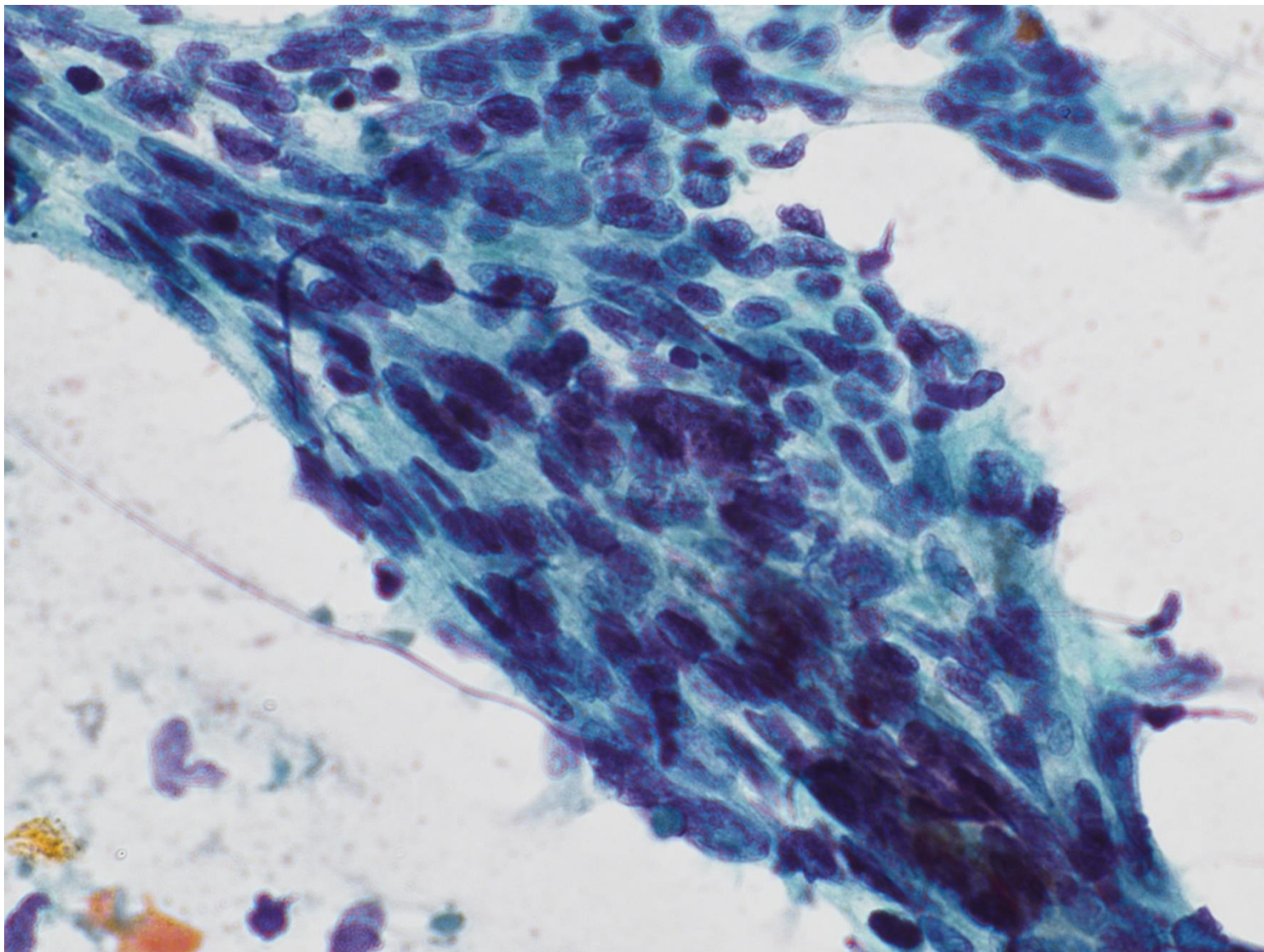
・組織型の推定と補足

組織学的に扁平上皮癌では、非角化型や類基底細胞型などの分化の低い部分でみられる増殖パターンである。細胞学的にもこの癌細胞の増殖パターンをよく反映している。

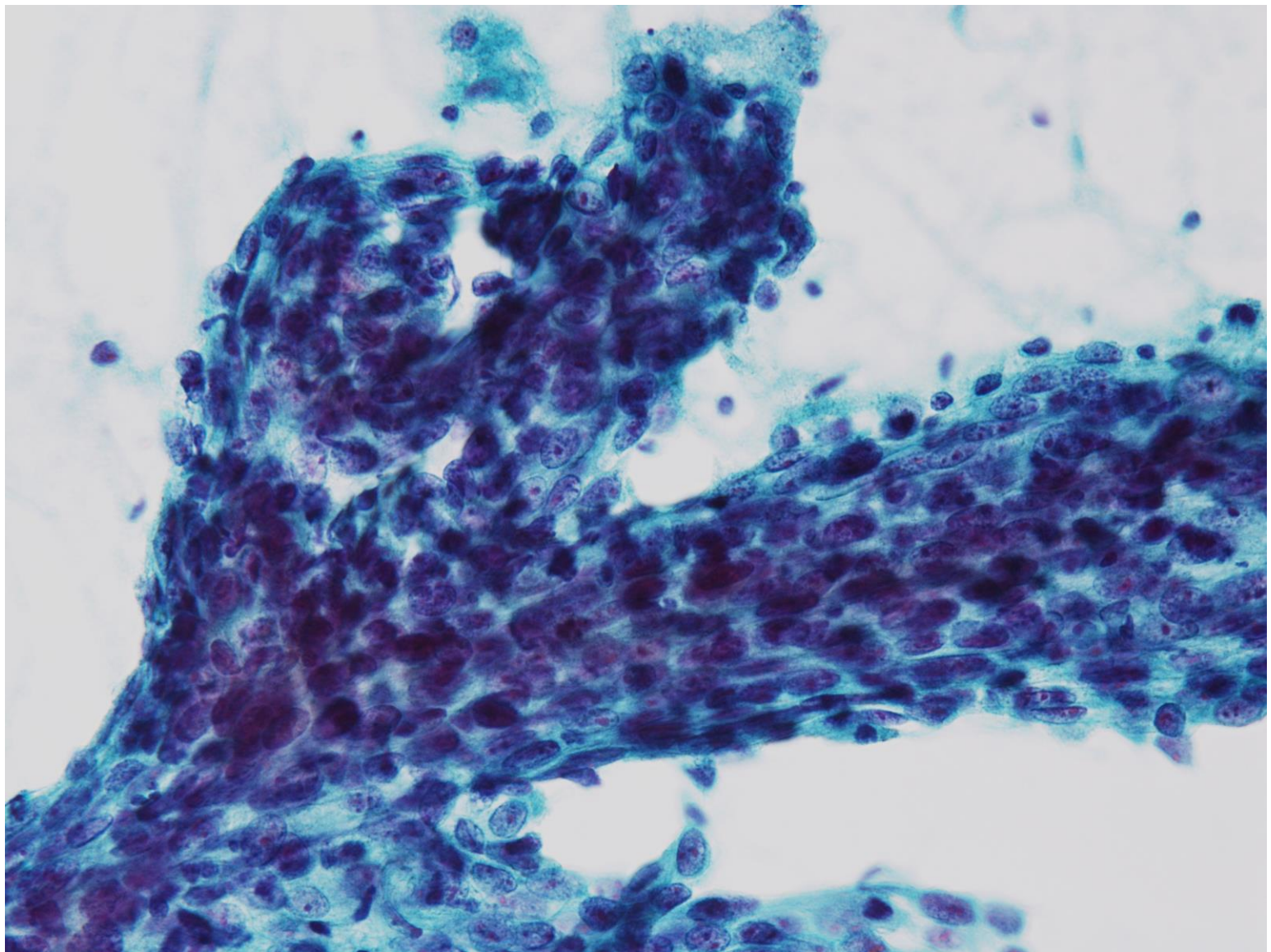
一般的に、角化型扁平上皮癌では、細胞学的にも角化異型細胞が出現するため組織像を容易に推定できることが多い。しかし、角化異型細胞がみられない場合は、腺癌と扁平上皮癌の鑑別が難しい場合がある。この時、流れ様配列を正しく判定することにより、両者を鑑別できる重要な構造所見の一つと言える。なお、腺癌の細胞診でもこのパターンの構造所見をみるがあるので注意しておく必要がある。



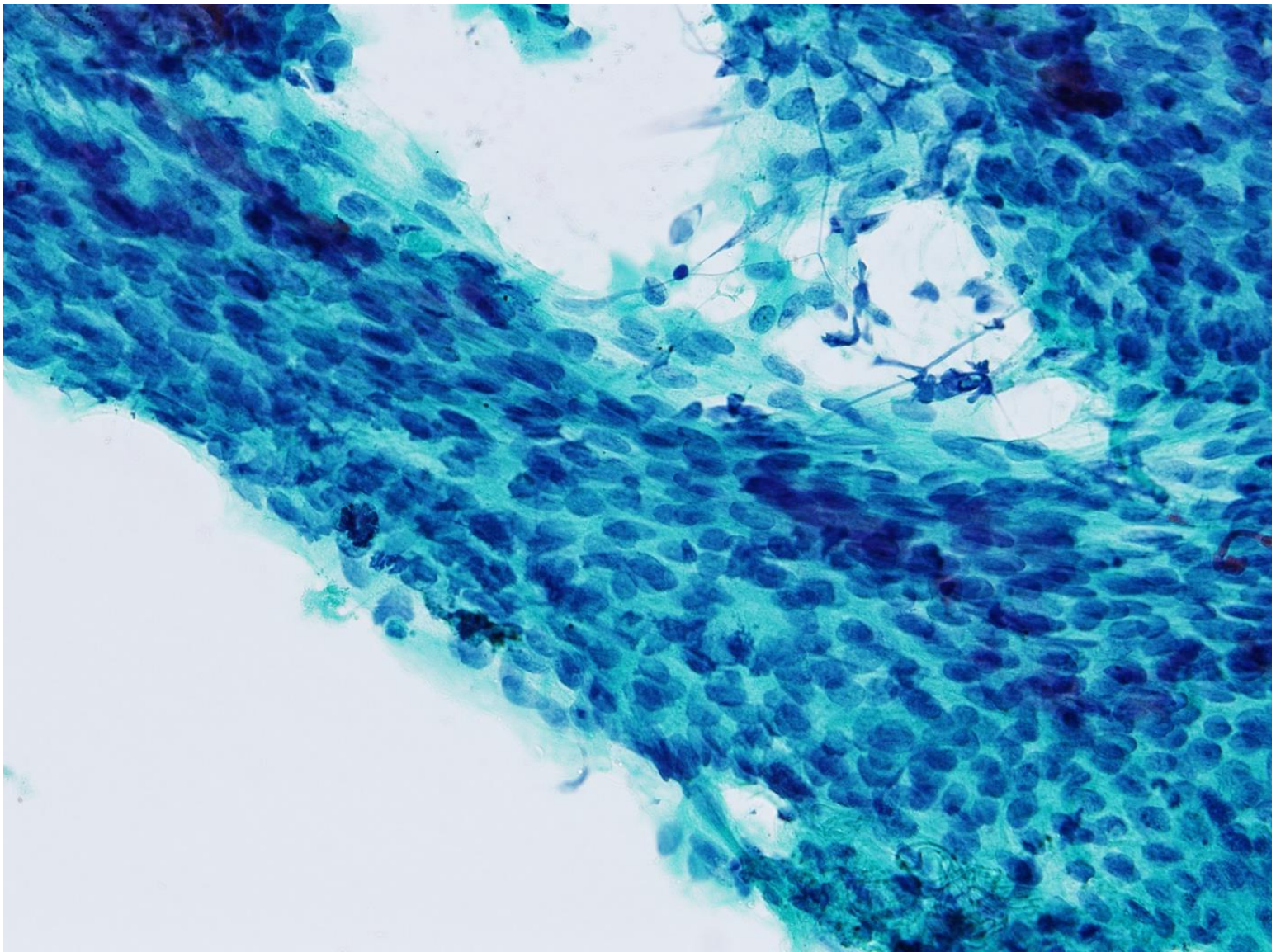
定型例 ⑩-1 (擦過、扁平上皮癌、用語の一致率100%) : 大型の細胞集塊内では中心～辺縁付近にかけて、楕円形の核を示す腫瘍細胞が、長軸方向に多数の束となって配列している。流れ様配列と判定する。



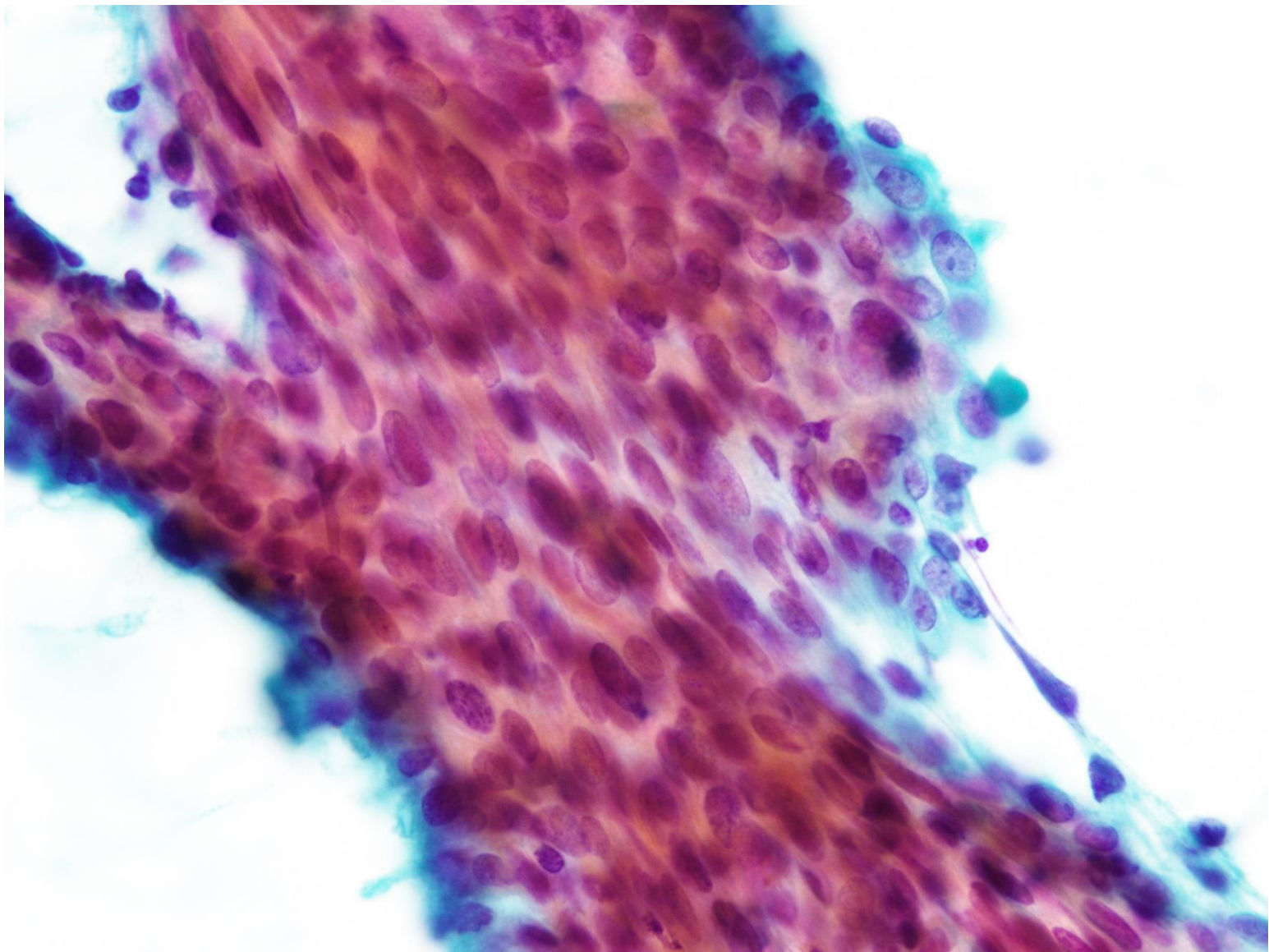
定型例 ⑩-2 (擦過、扁平上皮癌、用語の一致率100%) : 大型細胞集塊内の中央～左上にかけて、楕円形あるいは紡錘形の核をもつ腫瘍細胞が長軸方向に束状になって配列している。流れ様配列と判定する。



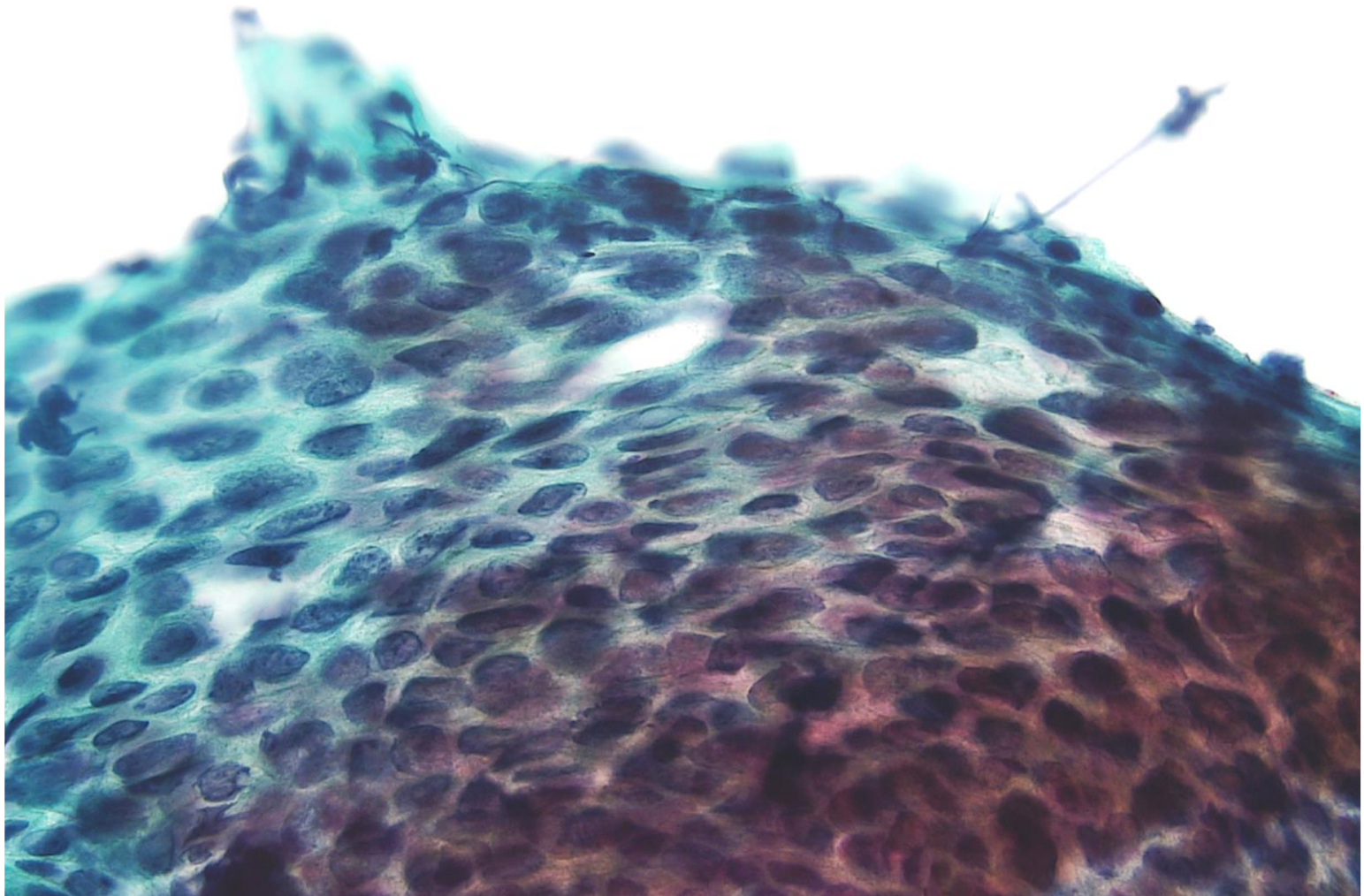
定型例 ⑩-3(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率100%): 大型細胞集塊内の右下付近では、核の長軸方向に楕円形あるいは紡錘形の核が、数列の束をなして、流れるように配列している。流れ様配列と判定する。



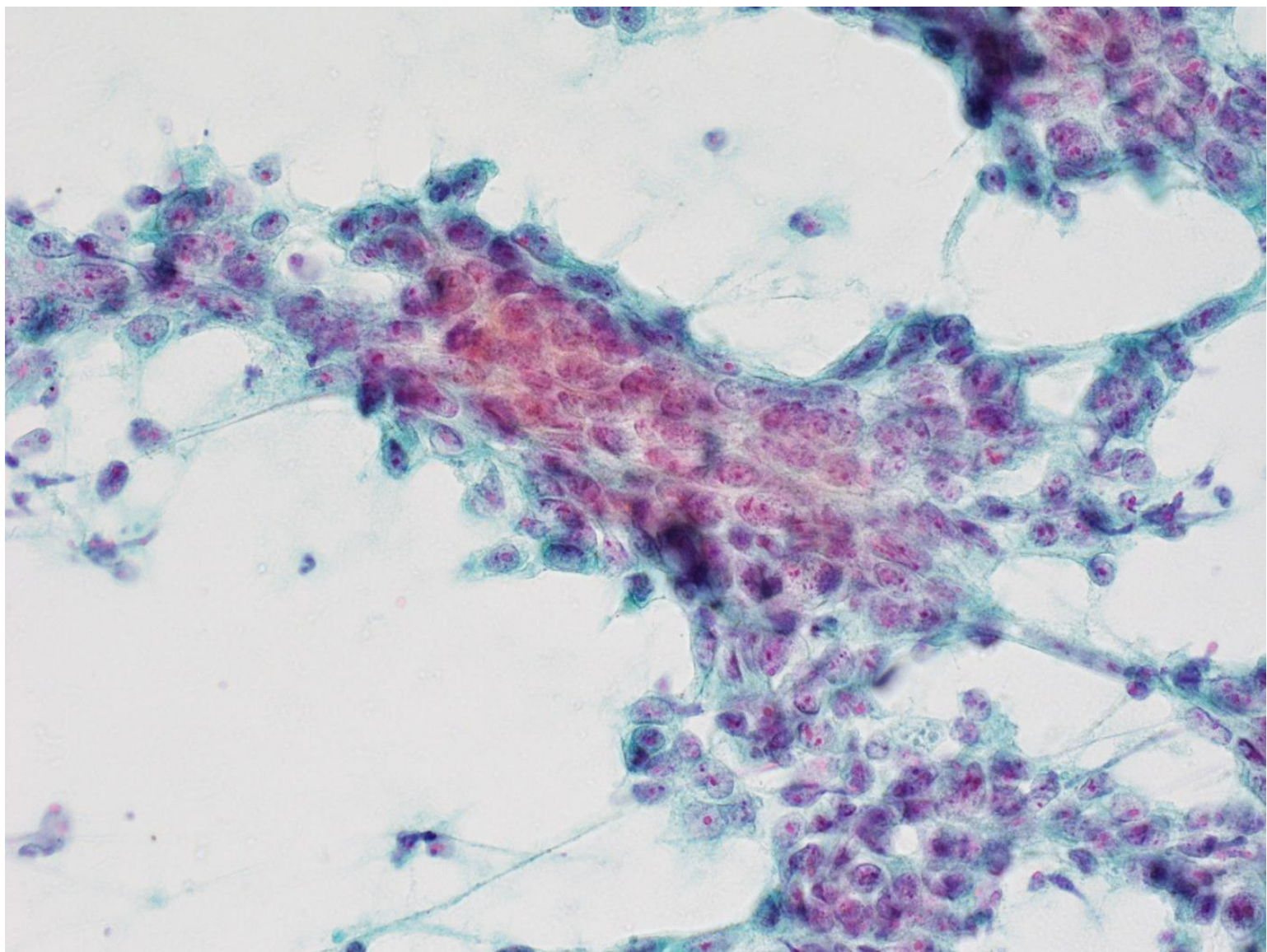
定型例 ⑩-4(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率100%): 大型細胞集塊内では、核の長軸方向に沿って、楕円形の核をもつ腫瘍細胞が束状になって、川が流れるように配列して認められる。流れ様配列と判定する。



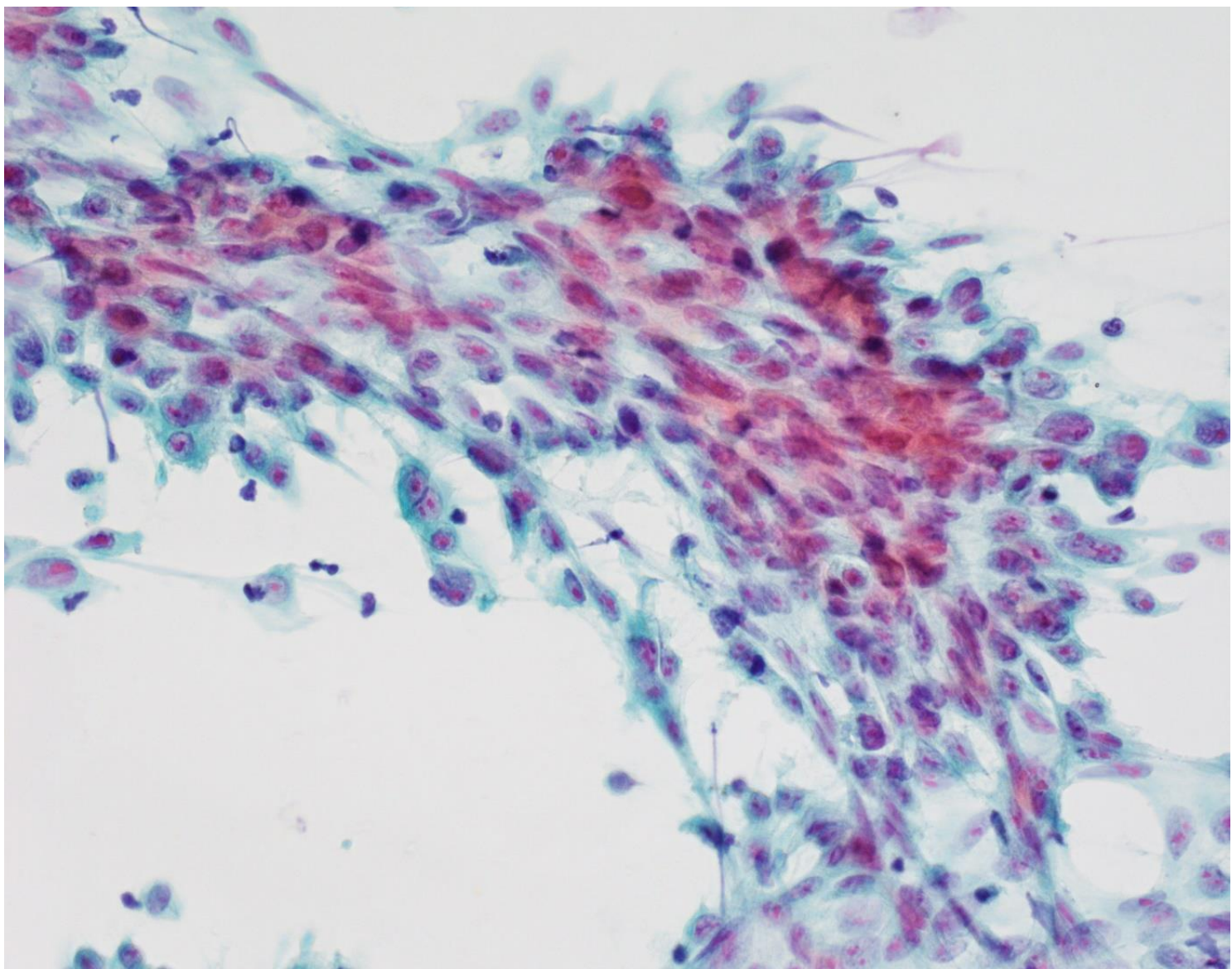
定型例 ⑩-5 (EBUS-TBNA、扁平上皮癌、用語の一致率100%) : 左斜め上～右斜め下に向かって、核の長軸方向に沿って楕円形あるいは紡錘形の核が、4～5列で束状になって、流れるように配列している。流れ様配列と判定する。



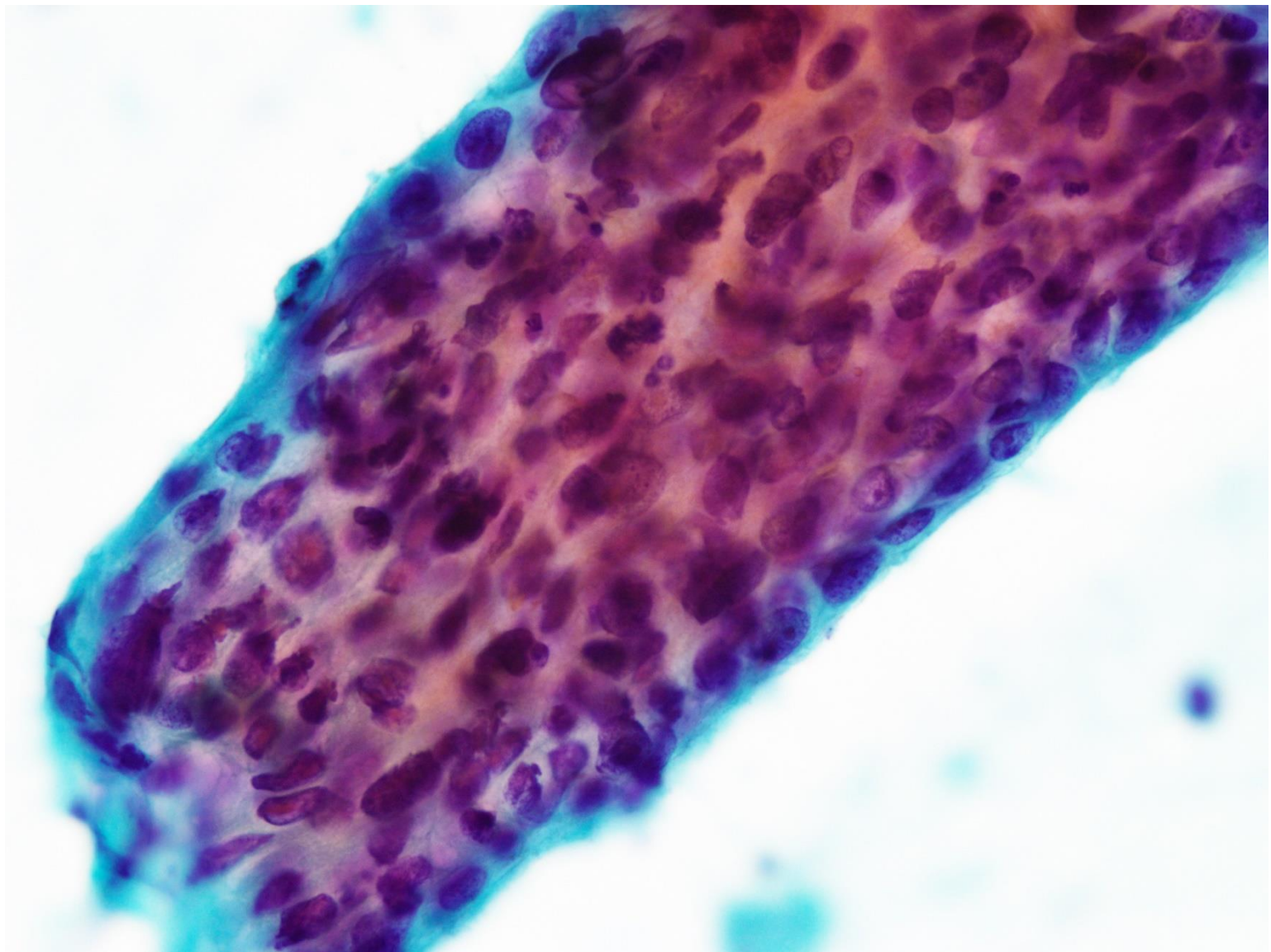
定型例 ⑩-6 (EBUS-TBNA、腺癌、用語の一致率90%) : 大型細胞集塊の中央部より少し上側で、楕円形あるいは紡錘形の核が、核の長軸方向に数層の列をつくりながら束状に配列している。流れ様配列と判定する。



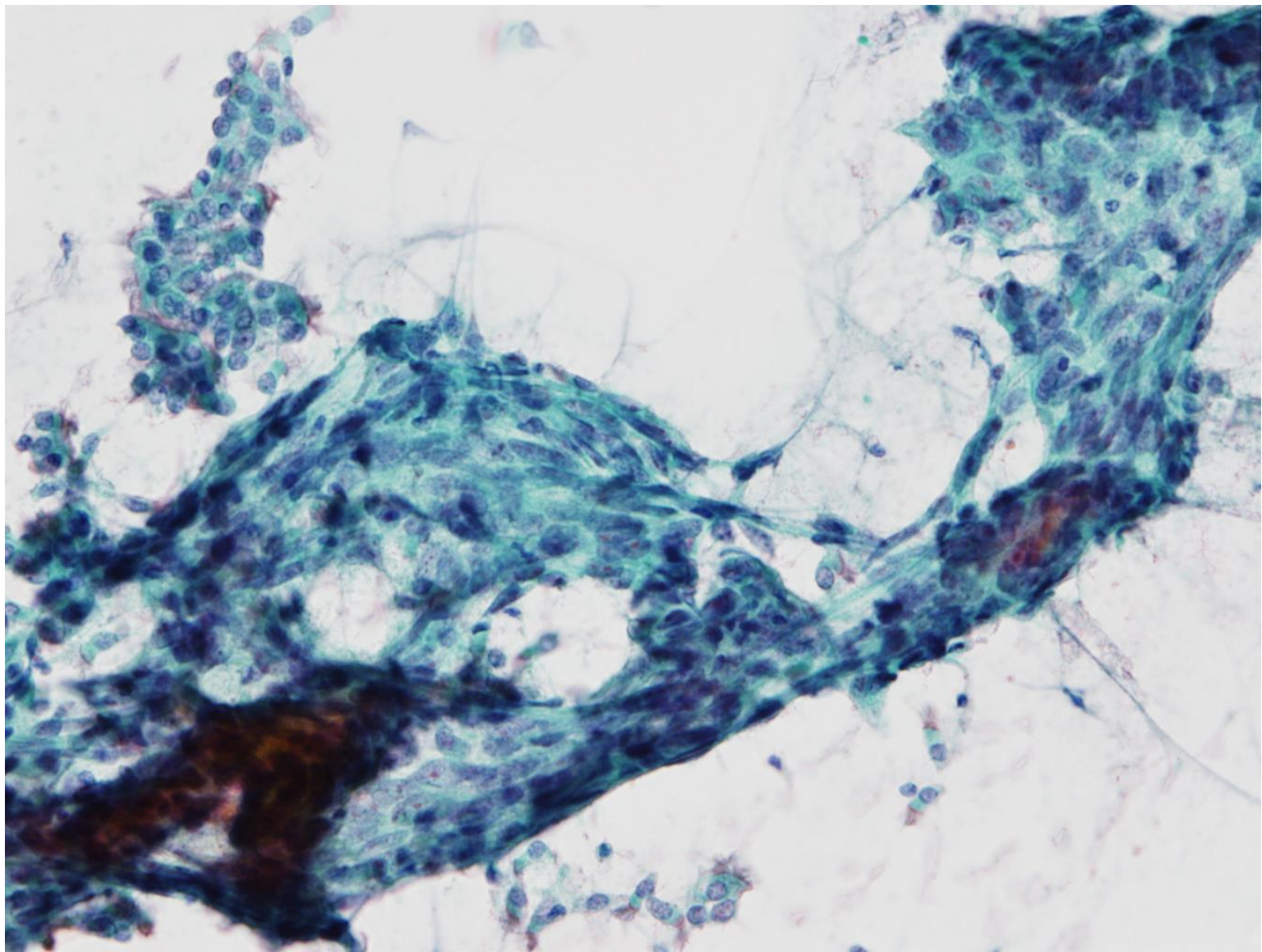
⑩-7(捺印、扁平上皮癌、用語の一致率10%):大型細胞集塊内では、楕円形の核を有する腫瘍細胞が、なんとなく並んで配列している。しかし、核の長軸方向に規則正しく、列をなして束状に配列している像は認められない。流れ様配列とは判定しない。



⑩-8(捺印、扁平上皮癌、用語の一致率50%): 集塊辺縁部で結合性の緩い大型細胞集塊が認められる。楕円形の細長い核をもつ腫瘍細胞が、核の長軸方向に1列に並んでいるのが、数か所みられる。しかし、定型像でみるような束状の配列は認められない。流れ様配列とは判定しない。



⑩-9(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率20%): 重積性を示す大型細胞集塊内では、核の長軸方向に腫瘍細胞が列をなして束状に配列している像はみられない。流れ様配列とは判定しない。



⑩-10(擦過、腺癌、用語の一致率70%): 大型細胞集塊内では数か所で、細長い核が長軸方向にわずかに並んでいる。定型像のように列をなしたり、束状に配列している像ではない。流れ様配列とは判定しない。なお、腺癌でもartifactのため流れ様に配列していることもあるので注意が必要である。